



生涯学習センターだより

2023. 8. 31 (木) 2023 年度第 1 号 (8 月号、通巻 37 号)

発行: 秋田県生涯学習センター

未知との遭遇

所長 松田 聡



はじめに、7月の豪雨で被災された県民の方々には、心よりお見舞い申し上げますとともに、復興に尽力されている皆様には、安全に留意されご活躍されることをお祈りいたします。

さて、20年以上前ですが、私は英国に留学する機会があり、一時期、一般家庭でホームステイをしました。雨が降ったある日、帰宅したあと、ぬれた傘を広げて部屋で干していました。たまたま部屋の前を通りかかった高校生の長女がこの光景を見て、飛び出すような目をして突然叫び出しました。“Oh, my God! What are you doing?” (“ちょ、ちょ、ちょっと！なにしてんの！”)こちらがぼかんとしていると、「家の中で傘を広げると縁起が悪いのよ！」とお叱りを受けました。その後話を聞くと、英国では、「傘を家の中で広げると不幸が起きる」という迷信があるということでした。デパートで傘を買うときでさえも開くことはせずに、全体の絵柄がわからない状態で購入するようです。知らなかったとはいえ、恥ずかしい思いをしましたが、いい勉強になりました。

このエピソードは日本と英国との風習の違いの例でしたが、異文化に限らず、どのような分野であっても、知らなかったことを新たに知ること、知識や経験を増やし、人に教えたり、生活の中で応用したりすることで、その後の人生をより情味豊かなものにしてくれます。

学びのスタートには早いも遅いもありません。「知りたい、学びたい」と思った瞬間が学びのスタートです。是非、様々なことに興味を持ち、その中から深く学んでみたいことを探してみたいはいかがでしょうか。

生涯学習センターでは、県民の皆様が広く参加できる「あきたスマートカレッジ」を開催しております。「地域づくり」「現代的課題」「教養」の3つの分野で、専門の講師による講座を設けています。詳細については当センターのwebサイトをご覧ください。新しい学びの機会としてご活用いただければ幸いです。今年度もどうかよろしくお祈りいたします。

あきたスマートカレッジ 9、10月の予定

会場 : 秋田県生涯学習センター

【サポーター養成講座】(無料)[13:30 ~ 15:00]

9月2日(土) ○秋田の若者の自立支援

[講師]NPO法人KOU

事務局長 大屋友紀 氏

10月7日(土) ○秋田県民と介護支援専門員の

未来創造

[講師]特定非営利活動法人

秋田県介護支援専門員協会

副会長 佐藤菖子 氏

【障害者の生涯学習講座】(無料)[10:00 ~ 11:30]

9月2日(土) ○音の優しさ、音の力

～音楽療法について～

[講師]

合同会社トゥルース 代表社員

音楽療法教室リヴァ 音楽療法士

平川真実 氏

10月7日(土) ○知っ得アートテクニク!

～自分の表現に

ちよい足ししよう～

[講師]秋田大学

教授 長瀬達也 氏

【東大史料編纂所協力講座】(有料)[10:00 ~ 11:30]

9月9日(土) ○紙背文書とその世界

～貴族たちの生活と交流、政治～

[講師]東京大学史料編纂所

助教 海上貴彦 氏

9月30日(土) ○書く武士

[講師]東京大学史料編纂所

助教 小瀬玄士 氏

10月14日(土) ○イランの消費文化

～オランダ東インド会社の

報告書を手掛かりに～

[講師]東京大学史料編纂所

助教 大東敬典 氏

【北条常久特別企画講座】(有料)[10:00 ~ 11:30]

9月16日(土) ○『赤い鳥』に憧れて

[講師]秋田県生涯学習センター

シニアコーディネーター 北条常久

10月21日(土) ○桃太郎はどう語られてきたのか

～時代とともに移り変わる

桃太郎像～

[講師]秋田県立図書館

館長 菅原敏紀 氏

持続可能な地域づくりや課題解決に向け、「熟慮×議論」により得られた考え方の方向性をもとに連携・協働を形成・促進する話し合いの手法の一つが「熟議」です。進行役のファシリテーション技術と「熟議」の本質を学ぶ講座が今年度初登場しました。全4回のこの講座には、6名がエントリーしました。



第1回講座「熟議における導入」より

【第1回】(6/3) 最初に「熟議」を行う意義、「熟議」を進める上でファシリテーターが果たすべき役割、「熟議」の導入部分をいかに組み立てるのかについての講義があり、続いて実際の「熟議」を縮小した形式で体験しました。何かを決定する会議のような堅苦しさをなくして自由闊達な意見交換の場にすることで、参加者が様々な考え方に触れ、自分の考えを深め、共感したり、自分事意識が醸成されたりすることが大事であり、そのための雰囲気づくりをするのがファシリテーターの役割であることを学びました。

【第2回】(6/24) 「熟議の考え方、手法、進行、構想の立て方」と題して、熟議で用いるスライドの組み立て方を学びました。「当事者意識を持つ(自分事として考える)ようになるためのテーマ設定」が最も大事であること、雰囲気づくりとしての「アイスブレイクのあり方」、参加者が話し合いの方向性を理解するための「提示資料」にはどのようなものが適切か、話し合いのラウンドごとにグループのメンバーを入れ替えることの意義などについて学んだ後、実際のスライドづくりを行いました。

【第3回】(7/15) 豪雨が予想されたことから、YouTubeでの配信による実施としました。「熟議におけるまとめ」について、講師は、『そもそも結論を導いたり、議決しないのが「熟議」であり、参加者が意識・思考の方向性を共有することが大事である』と、実例を示して強調しました。

【第4回】(8/5) 前回はYouTubeでの配信となったため、最初に「まとめをどのように行うか」の演習を行いました。その後、それぞれの受講者が作成したスライドを使って「ミニ熟議」を行い、学習成果を披露しました。各自の立場(所属団体・自治会等)で今取り上げたいテーマを設定して作成されたスライドにはたくさん工夫が見られ、すぐに活用できるものに仕上がっていました。「ファシリテーションは経験が大事であり、今回の経験を生かして何度でも挑戦してほしい」との講師による激励で講座は終了しました。

トピックス

「北海道・東北5道県生涯学習センター等研修交流会」が、4年ぶりに対面型で開催されました！

令和5年7月13日・14日、北海道・東北5道県生涯学習センター等研修交流会が北海道で開催されました。対面での開催は実に4年ぶりでしたが、顔を合わせた瞬間に「やはり直接会って話ができるのはいい！」と感じたのは我々だけではなかったと思います。

1日目は、札幌市の北海道立生涯学習推進センターを会場に協議が行われました。各センターが持ち寄った6つの協議題(「ICTを活用した事業について」「生涯学習・社会教育関係職員研修講座について」「市町村の地域振興や地方創生を支援する事業について」「障害者の生涯学習について」「元気高齢者に対する人材育成について」「SDGs推進のための事業について」)について、それぞれの知見・経験を語り合いました。

5道県の生涯学習センターは、組織の在り方・担当する業務内容・財政規模等の点において、みな異なっています。県民向けの生涯学習講座を直接実施しているセンターもあれば、全く実施していないセンターもあります。また、財政規模の大きいセンターもあれば、財政が厳しいセンターもあります。そういった違いを理解した上で、他道県センターの実践をどう自分たちの道県の仕組みの中で生かしていくかという視点で、熱のこもった議論と思考をぶつけあい、充実した学びの時間をもつことができました。

2日目は、北広島市に会場を移し、「北広島市の生涯学習・まちづくりの推進とプロスポーツとの連携について」と題して、北広島市教育委員会教育部長の吉田智樹氏と、同主査の杉原文惟氏から講話をしていただきました。

吉田氏の講義では、北広島市の概要説明の後、社会教育・生涯学習を推進することがウェルビーイングの達成(=自己実現)やソーシャルキャピタルの向上(=コミュニティの活性化)に繋がること、そして、人づくりこそがまちづくりに繋がることであるという説明がされました。またその実現のため、吉田氏が取り組んだ北広島市の各地区生涯学習振興会(行政主導から市民主導・あらゆる地域資源のネットワーク化・協働の観点からの行政の支援)の取組みと、それが地域づくりの要としての組織に発展していく過程がわかりやすく紹介されました。

杉原氏の講義では、ボールパーク誘致の実務担当者としての活動について説明を受けた後、市と球団との連携事業や地域住民に対する理解促進事業が、「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」の観点から行われたことの紹介がありました。

直接顔を合わせて話をするからこそ得られるものが確かにあると気付かされた研修会でした。



エスコンフィールド北海道